



**G-7 Group**

**株式会社 G-7 ホールディングス**

**平成25年3月期第2四半期会社説明資料**

1. 会社概要	P. 3
2. 主な連結子会社	P. 4-5
3. ストアネットワーク	P. 6
4. 業績の推移	P. 7
5. 平成25年3月期第2四半期連結業績と通期予想	P. 8
6. セグメント別の事業動向	P. 9-18
7. M&Aと海外展開について	P. 19-22
8. 中期経営計画について	P. 23-25
9. 一株当りの情報および配当	P. 26
ご参考	P. 28-32

会社名	株式会社G-7ホールディングス (G-7HOLDINGS. Inc)
設立	1976年(昭和51年)6月18日
資本金	17億8570万円
株式	東証・大証1部上場(証券コード:7508)
代表者	代表取締役会長 木下 守 代表取締役社長 金田 達三
本社	神戸市須磨区弥栄台3丁目1-6 TEL:078-797-7700 FAX:078-797-7710
事業内容	オートバックス、業務スーパーなどの事業を行うグループ会社の 経営戦略・管理・運営等をおこなう持株会社

- 昭和50年10月 現代表取締役会長、木下守が加古川市にカー用品専門店オートセブン加古川店を開店
- 昭和51年 7月 オートボックス大久保店を開店、以降、フランチャイジーとして積極的に出店
- 平成 8年 8月 大阪証券取引所市場第二部に株式を上場
- 平成13年 5月 東京証券取引所市場第二部に株式を上場
- 平成14年 4月 子会社株式会社サンセブンを設立、業務用食材小売販売を行う「業務スーパー」をフランチャイジーとして積極的に展開
- 平成17年 9月 東京証券取引所・大阪証券取引所市場第一部に指定
- 平成18年 4月 G-7グループ各事業会社を支配・管理する持株会社の「株式会社G-7ホールディングス」に組織・商号変更
- 平成18年10月 株式会社オートセブンがM&Aによりオートボックス2店舗を運営する福神産業を買収
- 平成18年11月 M&Aにより自動車板金塗装業等を営む㈱タカツキを買収
- 平成20年 6月 M&Aにより食品販売・FC事業を展開する㈱シーアンドシーを買収
- 平成21年12月 M&Aにより農産物直売所「めぐみの郷」を店舗展開する㈱めぐみのさとを買収。アグリ事業に参入。
- 平成23年 3月 シンガポールに東南アジアの子会社を統括するG7インターナショナルを設立。海外事業展開開始。
- 平成24年 4月 マレーシアにオートボックス1号店を開店。
- 平成24年10月 M&Aにより高級冷凍食品の製造・卸を行う㈱コールドファミリーを買収

オートバックス、業務スーパーを中心に小売の枠を超えた事業を展開

## G-7グループが挑戦する事業



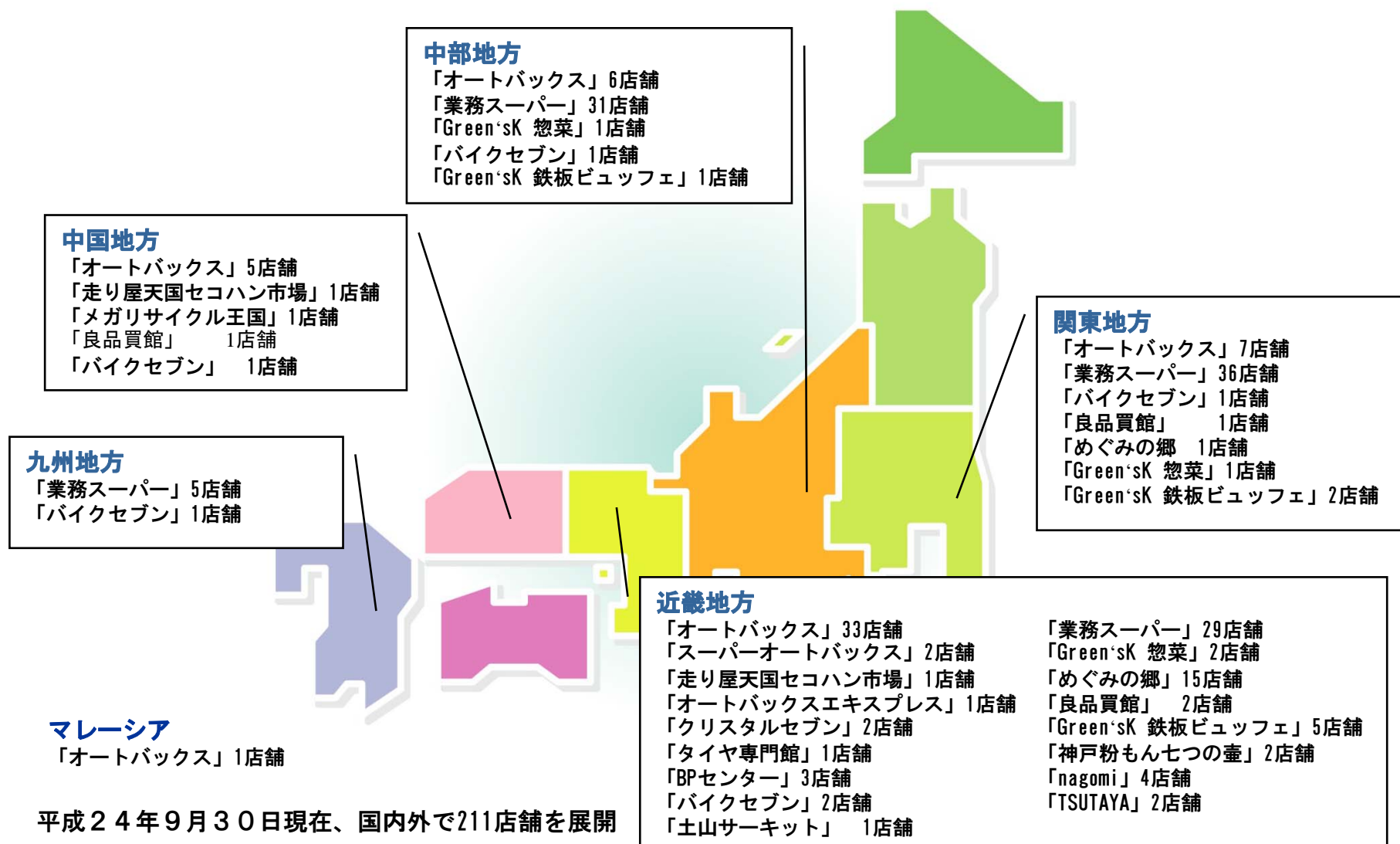
## 主な連結子会社

株式会社 G-7 ホールディングス

9つのグループ会社で、計211店舗を展開

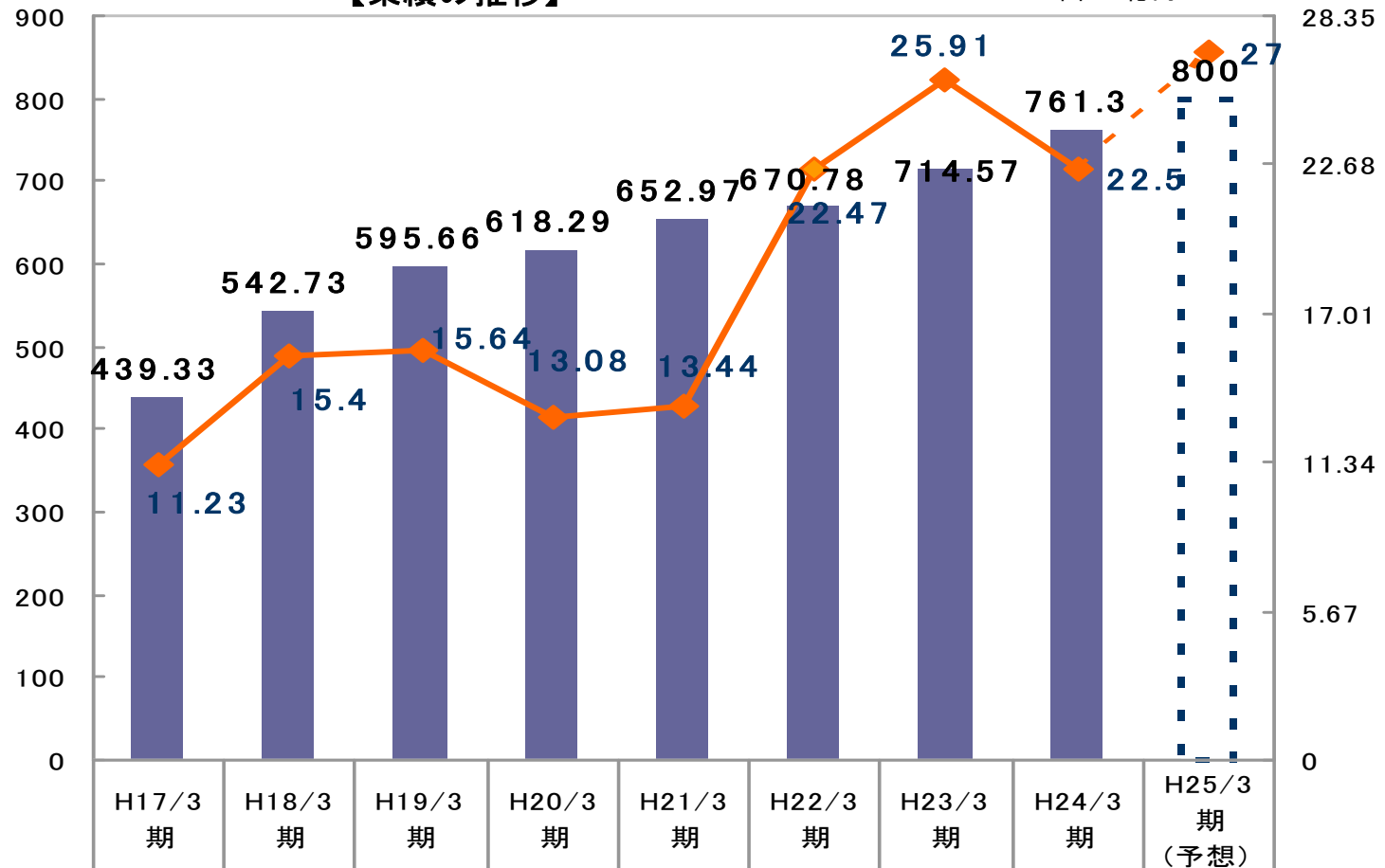


<p>(株)オートセブン</p>  <p>オートボックスを中心としてトータルカーライフ事業を展開</p>	<p>(株)サンセブン</p>  <p>業務スーパーを中心に食品小売事業を展開</p>	<p>(株)セブンプランニング</p>  <p>グループの不動産開発の他、リサイクルショップ「良品買館」、介護事業を展開</p>
<p>(株)めぐみのさと</p>  <p>農産物直売所「めぐみの郷」の店舗展開</p>	<p>(株)G-7 モータース</p>  <p>自動車の板金・塗装など自動車関連の総合サービス業を展開するとともにバイク用品専門店「バイクセブン」を展開</p>	<p>(株)シーアンドシー</p>  <p>「こだわり食品」事業を中心にTSUTAYA事業を展開</p>
<p>上野食品(株)</p> <p>生味噌、即席スープ、惣菜、各種レトルト食品の加工食品の商品開発、製造、卸販売</p>	<p>G7 INTERNATIONAL</p>  <p>東南アジアの子会社を統括する管理会社</p>	<p>Seven Fortune Malaysia sdn. Bhd .</p>  <p>マレーシアでオートボックスを展開</p>



【業績の推移】

単位：億円



■ 売上高	439.33	542.73	595.66	618.29	652.97	670.78	714.57	761.3	800
◆ 経常利益	11.23	15.4	15.64	13.08	13.44	22.47	25.91	22.5	27



## 平成25年3月期第2四半期の連結業績と通期予想

株式会社G-7ホールディングス

主力の「オートバックス」「業務スーパー」と新規買収、めぐみの郷での損益改善で2桁増収へ

単位：百万円

	H25年03月期 2Q	前年同期比 増減率	H25年3月期 通期予想	前期比 増減率	通期予想 進捗率
売上高	40,235	10.3%	80,000	5.1%	50.2%
営業利益	1,067	2.9%	2,600	19.3%	41.0%
経常利益	1,206	15.1%	2,700	20.0%	44.6%
当期純利益	666	18.2%	800	10.7%	83.2%

### 増加要因

1. 国内オートバックス事業の拡大（新規、M&A）
2. 国内業務スーパー事業の拡大
3. 上野食品の収益寄与
4. めぐみの郷事業の収益改善

### 減少要因

1. 国内外における事業展開の初期投資負担（オートバックス事業、食品スーパー事業）

## ■ セグメント別の事業動向

## セグメント別の第2四半期業績

株式会社 G-7 ホールディングス

単位：百万円

	売上高	増減	対前期 増減率	営業 利益・損失	増減	対前期 増減率
オートバックス 車関連	15,383	1,104	7.7%	559	-65	-10.4%
業務スーパー こだわり食品関連	23,317	2,250	10.7%	634	-51	-7.5%
その他	1,534	402	35.5%	-86	114	(好転)

増加要因	減少要因
<ol style="list-style-type: none"> <li>国内オートバックス事業の拡大(新規、M&amp;A)</li> <li>エコカー補助金等による車販売増</li> <li>業務スーパーでの2店舗新規出店</li> <li>めぐみの郷での損益改善</li> <li>めぐみの郷の不採算店舗閉店</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>地デジ化完了に伴うカーナビ売上減</li> <li>オートバックスの新規出店に伴う初期費用負担</li> <li>業務スーパーでの原価率の上昇</li> </ol>

「オートボックス」のフランチャイズ事業が主軸-G7ホールディングスの主力事業



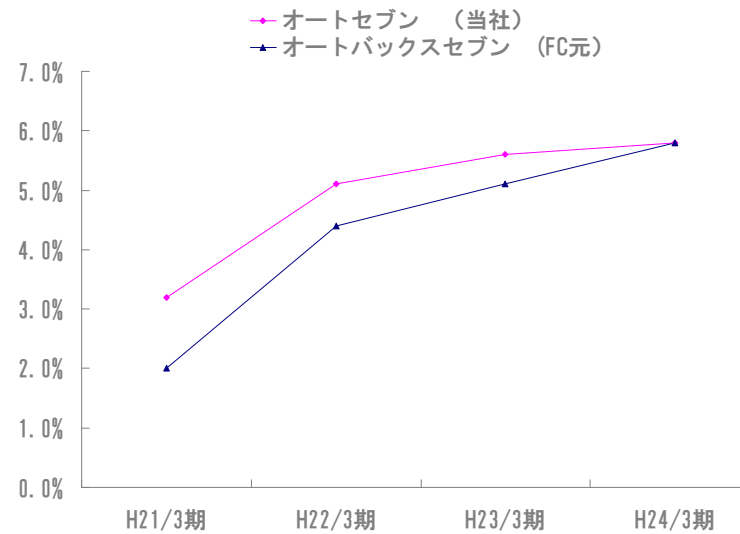
「オートボックス」篠山店



「オートボックス」蔵王店

- ・ 営業利益率はロイヤルティ収入がある  
オートボックスセブン（FC元）と同程度
- ・ メンテナンスサービスを強化し  
地域密着型の店舗へ
- ・ オートボックスの他にバイクセブン、  
板金・塗装（G-7モータース）も行う

## ■売上高営業利益率の推移

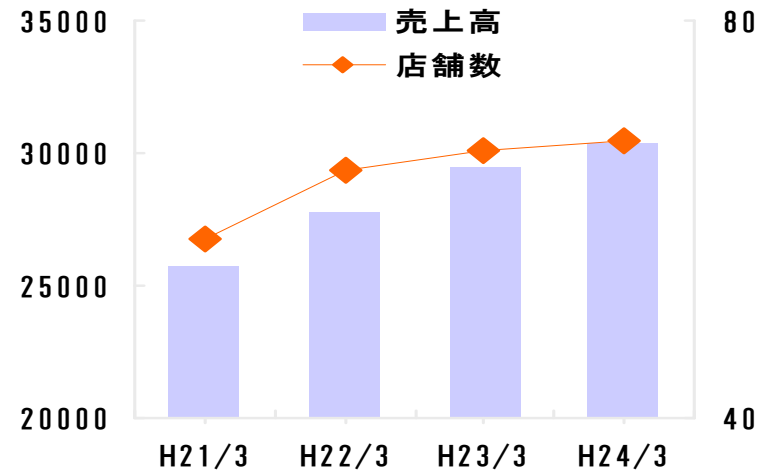


2Qは会社予想内での着地、厳しい業界環境下で当社事業は堅調に推移

	2Q実績	前年同期	増減比
売上高	15,383	14,279	1,140
営業利益	559	624	-65
店舗数	71	65	6

(単位：百万円、店舗数)

■店舗数と売上高の推移

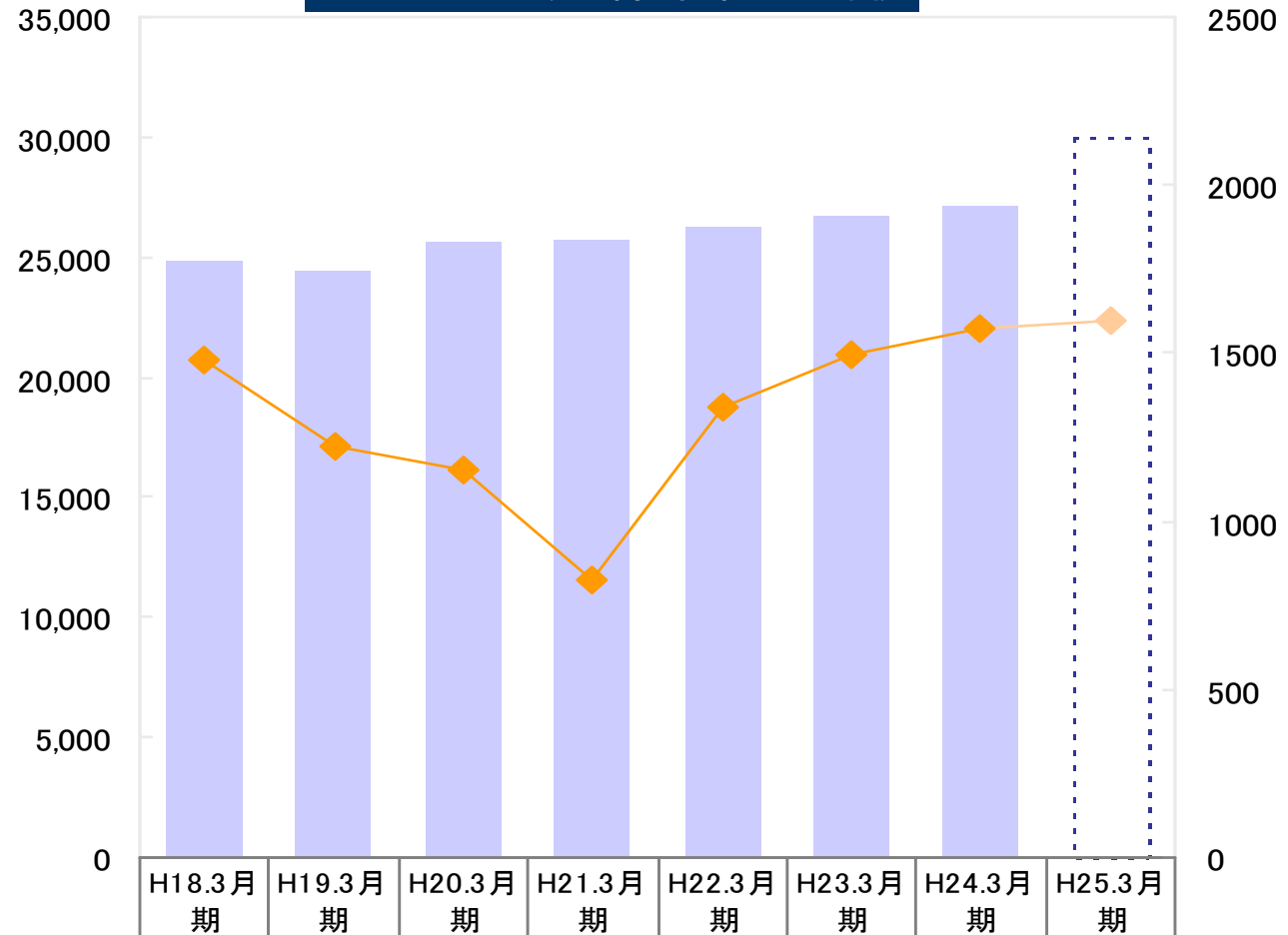


概況	下期予想
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地デジ化移行完了に伴う減収</li> <li>・ オートボックス2店舗新規出店で売上増</li> <li>・ オートボックス3店舗のM&amp;Aで売上増</li> <li>・ バイクセブンでの2輪（バイク）が好調</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3Q以降に収益性の高いスタッドレスタイヤやチェーンの売上増</li> <li>・ 高収益性のメンテナンスサービスなどのサービス売上を全体の40%まで引上げへ</li> </ul>

# オートセブンの業績

(単位：百万円)

オートセブンの売上高と営業利益の推移



オートボックス事業売上	24,853	24,430	25,617	25,725	26,246	26,673	27,171	30,000
オートボックス事業営業利益	1,483	1,220	1,151	822	1,338	1,493	1,575	1,600

「業務スーパー」のフランチャイズ事業が主カーG-7ホールディングスの主力事業



「業務スーパー」

- ・ 長期化するデフレで低価格スーパーの「業務スーパー」が堅調
- ・ 食品会社を買収しグループシナジーを追求中



上野食品の製品

10月に「コールドファミリー」を買収

資本金 : 1,000万円

創業 : 1974年

売上高 : 約600百万円 (12/2月期)

事業内容 : 全国の名産品・特産品の卸売り  
高級冷凍食品の開発製造販売

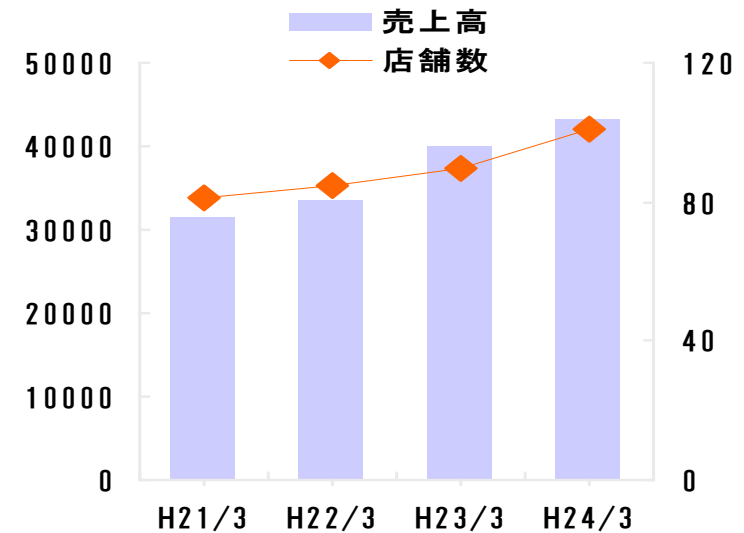
取引先 : 全国の高級スーパー、百貨店

上野食品の収益寄与と業務スーパーでの拡販・新規開拓で通期予想を達成へ

	2Q実績	前年同期	増減比
売上高	23,317	21,067	2,250
営業利益	634	685	-51
店舗数	102	94	8

(単位：百万円、店舗数)

■店舗数と売上高の推移



## 概況

- ・ 業界内の競争激化で売上が横ばい
- ・ 業務スーパーを2店舗新規出店で売上増
- ・ 新規買収した上野食品で売上増
- ・ 神戸物産との取引条件見直しで減益

## 下期予想

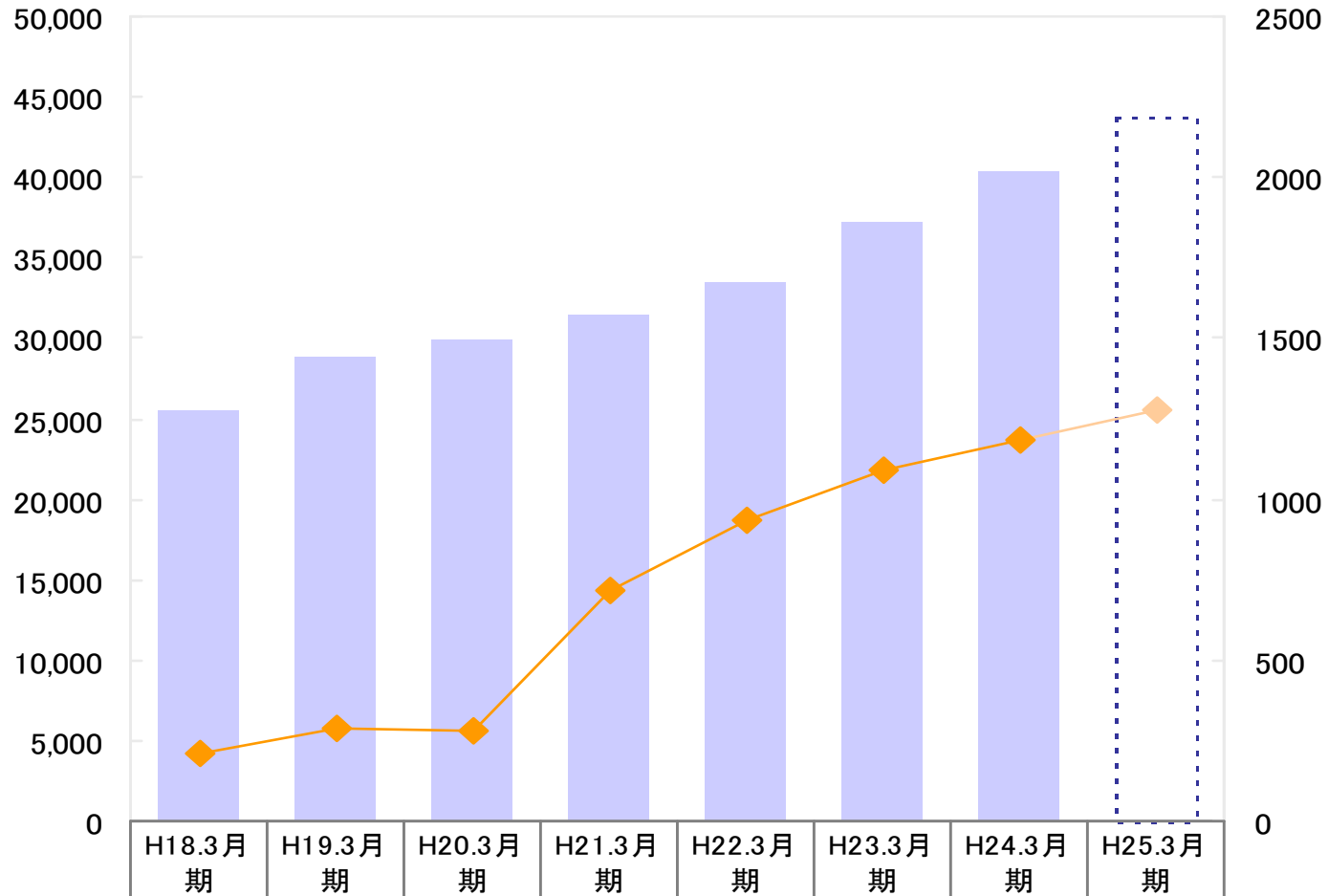
- ・ 業務スーパーで生鮮品の強化、品揃えの強化、業者の新規、顧客開拓を行い期初計画を達成へ



# サンセブンの業績

(単位：百万円)

## サンセブンの売上高と営業利益の推移



■ サンセブン売上	25,599	28,849	29,927	31,529	33,500	37,168	40,306	43,800
◆ サンセブン営業利益	208	285	277	714	934	1,094	1,187	1,275

## その他事業

「Green's K 鉄板ビュッフェ」「めぐみの郷」「良品買館」などを展開



「Green's K 鉄板ビュッフェ」8店舗  
SmaStationなどメディアにも露出  
行列が出来る人気



「良品買館」4店舗

- ・長期化するデフレで食べ放題の  
「Green's K 鉄板ビュッフェ」が堅調
- ・「良品買館」は節約、エコ志向で追風
- ・めぐみの郷はPBブランドによる卵、米  
などの差別化商品が好調



「めぐみの郷」16店舗  
PBブランドのほかに生花も好調



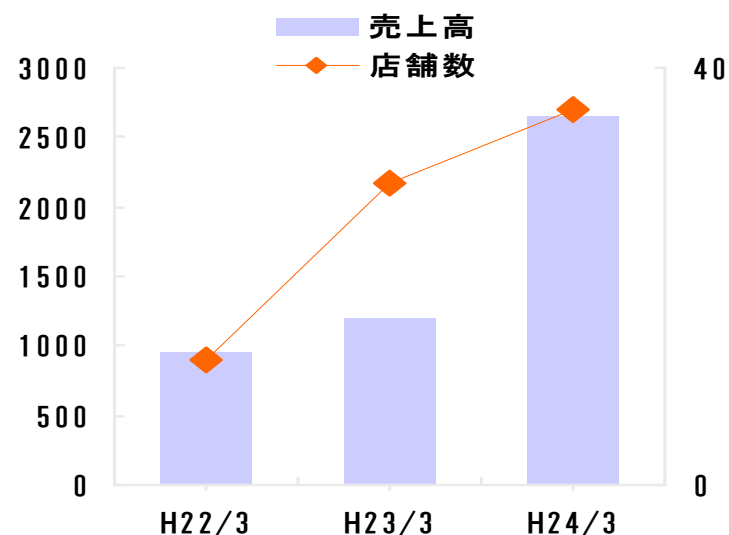
## その他事業

めぐみの郷で損失が縮小、セグメント全体の赤字幅が縮小へ

	2Q実績	前年同期	増減比
売上高	1,534	1,132	402
営業利益	-86	-200	114
店舗数	36	36	0

(単位：百万円、店舗数)

■店舗数と売上高の推移



概況	下期予想
<ul style="list-style-type: none"> <li>・良品買館で1店舗新規出店で売上増</li> <li>・Green's K 鉄板ビュッフェで1店舗新規出店で売上増</li> <li>・めぐみの郷での拡販施策で損失減少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めぐみの郷を関西エリアで4店舗出店</li> <li>・めぐみの郷の収益改善で、セグメントでの通期黒字化を目指す</li> </ul>

## ■ 海外展開とM&Aについて



### マレーシアでのオートバックス事業

- ・ 2012年4月にマレーシアで同社初となるオートバックス店を出店
- ・ 決め細やかなサービスで現地に密着したサービス提供
- ・ 現在来客数が1日50～100人程度
- ・ 2013年3月期にもう1店舗マレーシアで出店予定



### 海外でのアグリ事業

- ・ 2012年11月にミャンマー現地の流通大手と合弁会社設立予定
- ・ ミャンマーで2万坪の農業用地を確保済み
- ・ 質の高い野菜を生産予定
- ・ ベトナムにおいても出店、進出計画中

## 海外事業について

東南アジアを中心に日本でのノウハウを活かした事業を展開

国名	子会社名（設立）	事業内容
シンガポール	G7 INTERNATIONAL (2011年3月17日)	東南アジアの子会社を 統括する管理会社
マレーシア	Seven Fortune Malaysia (2010年12月20日)	オートバックス・車関連事業の展開 初期投資額：約3億円。 クアラルンプールを中心に、3年間で5店舗程度の出店を計画。
ミャンマー	CMJAPAN AGRICULTURE MYANMAR (2012年11月設立予定)	日本の農産物をミャンマーで生産し、現地のスーパーなどで販売、また現地のホテルやレストランに卸販売を行う。耕作予定地面積7ヘクタール 出資比率：シティーマートホールディング：60% 株式会社めぐみのさと：40%
ベトナム	2013年3月末までに 現地法人に出資	高所得者を対象にハノイ、ホーチミンにて高級食材を提供するスーパー出店を、2013年3月までに1店舗出店、3年で5店舗の出店を目指す
中国	七福集团有限公司 (2004年9月1日設立)	中国の子会社を統括する管理会社（香港）
	七福（上海）超市有限公司 (2011年9月16日設立)	店舗名：七福超市（Seven fortune Mart） 若干の高級感を持たせ、中間層以上の住宅街に食品スーパーを展開 初期投資額：約5,000万円 3年で10店舗、売上高4000百万円程度を目指す （日中情勢不安定の為、現在情勢を経過観察中）

## 近年のM&A実績

今後も、自動車関連、食品関連など、国内および東南アジアでグループに有益と思われるM&Aを積極的に推進

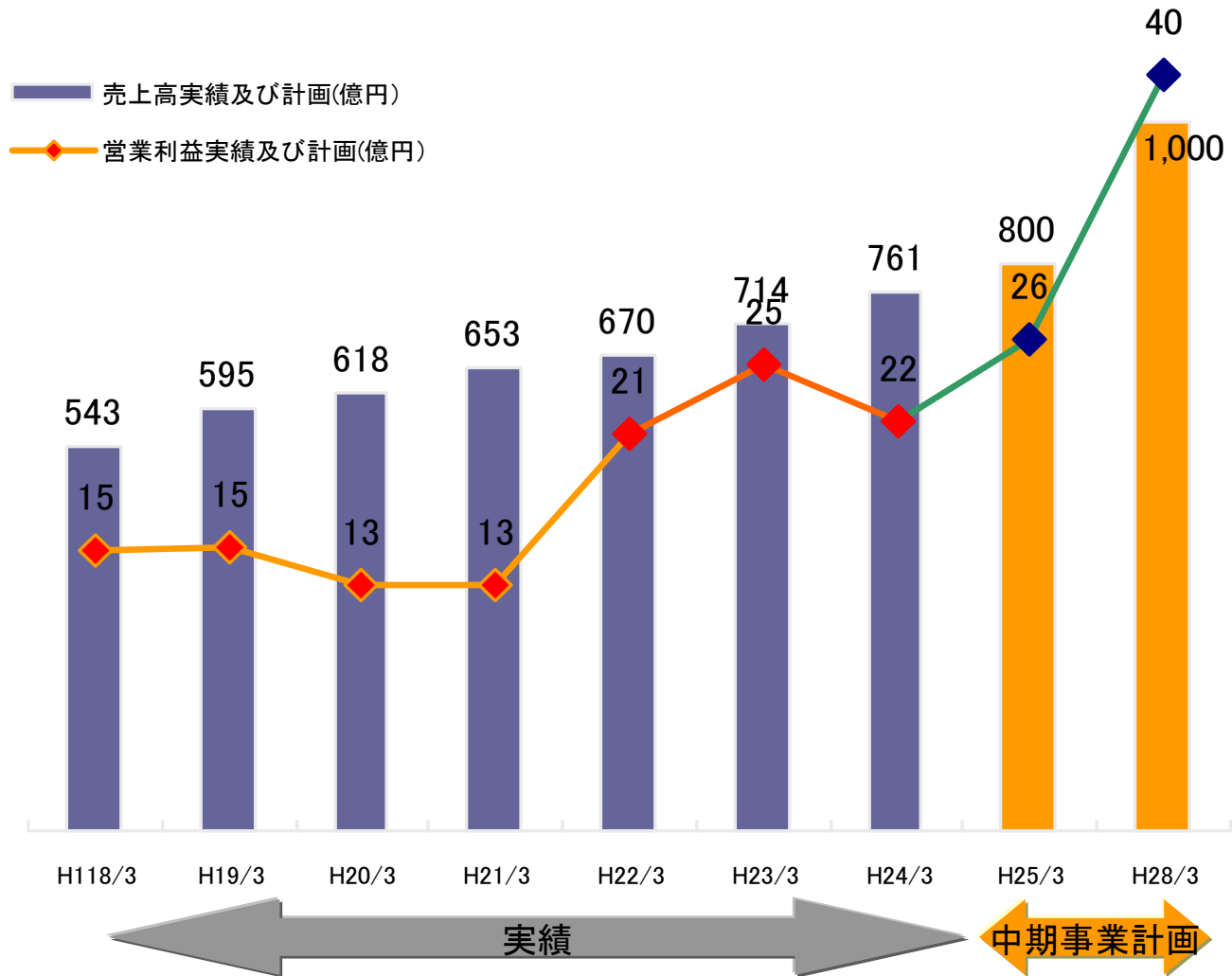
実施年月日	内容	対象子会社
2012年10月	全国の名産品、特産品の卸売や冷凍食品の製造販売を手がけるコールドファミリーを買収	(株)シーアンドシーの子会社として存続
2012年 4月	オートバックス福山中央、オートバックス蔵王、走りや天国セコハン市場福山の3店舗を買収	(株)オートセブン
2011年12月	老舗食品メーカーである上野食品を買収、100%子会社に	上野食品(株)として存続
2009年 6月	スーパーオートバックス西昆陽を買収	(株)オートセブン
2009年12月	農産物直売所「めぐみの郷」を店舗展開する(株)めぐみのさとを買収100%子会社に アグリ事業に参入	(株)めぐみのさととして存続
2008年 6月	こだわり食品卸、TSUTAYAを展開するシーアンドシーを買収、100%子会社に	(株)シーアンドシーとして存続

## ■ 中期経営計画について



# 業績の推移と中期経営計画

既存の底上げと新規事業で売上1,000億円へ

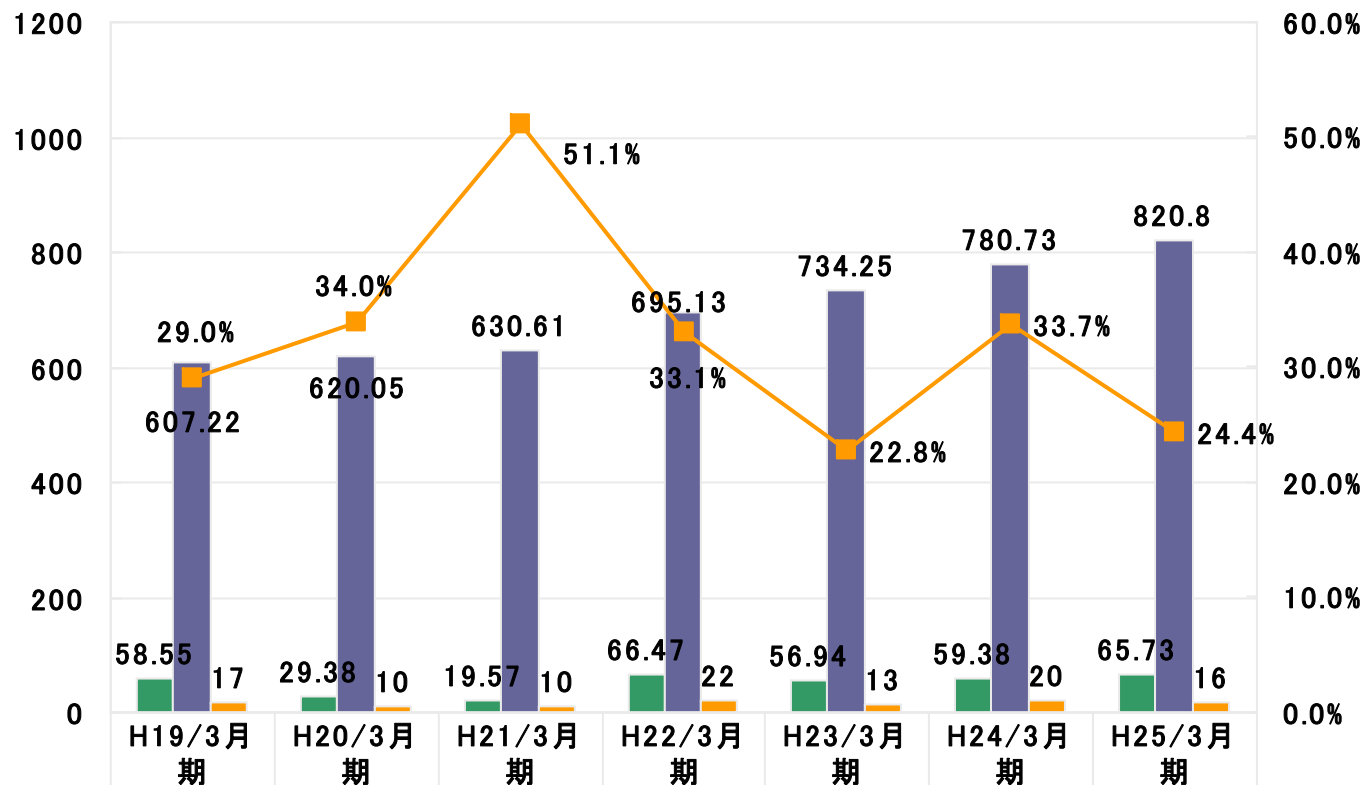


中期目標を達成していくために7つの具体的な事業戦略・事業展開を計画・実行

1. トータルカーライフサポートの更なる充実。オートバックス関連店舗、H28/3月末で100店舗に挑戦（24/3月末で57店舗）。小商圏型の小型オートバックス店の展開に注力するとともにM&Aを推進。
2. 業務スーパーの出店強化 特に東京都23区内、神奈川県都心に50坪～100坪の駐車場なしの小型店の出店を積極推進、創業 40周年時（28/3月期）150店舗に挑戦
3. シーアンドシー、上野食品、めぐみのさとがコラボレーションでPB商品の開発および販促の拡大を図る。
4. リユース事業「良品買館」の兵庫県下、岡山県、関東圏での多店舗化、レストラン事業の「グリーンズK 鉄板ビュッフェ」を近畿圏、関東圏で多店化を推進。
5. 産直市場「めぐみの郷」の内部充実と下期より関西圏に出店。関東圏においては、ミニ店舗を展開。
6. オートバックスのマレーシア国内での多店化、知名度UPを図り、マレーシアのトータルカーライフを提供。東南アジアの他国でも挑戦し、食品スーパー、他の事業においても本格的に実践。
7. 国内、東南アジアでのM&Aの推進、業績の拡大

# 一株あたりの情報および配当

25年3月期は、中間配当を8円、期末配当を8円、合計16円の予定



■ 一株当り当期純利益(円)	58.55	29.38	19.57	66.47	56.94	59.38	65.73
■ 一株当り純資産(円)	607.22	620.05	630.61	695.13	734.25	780.73	820.8
■ 一株当り配当金(円)	17	10	10	22	13	20	16
—■ 配当性向(%)	29.0%	34.0%	51.1%	33.1%	22.8%	33.7%	24.4%

※平成24年3月期、平成22年3月期の1株あたりの配当額には、特別配当が含まれています

**■ お問い合わせ**

**株式会社 G-7 ホールディングス**  
**総務部 IR・広報**

**TEL : 078-797-7710**

本資料に記載された意見や予測などは、資料作成時での弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。  
様々な要因の変化により、実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。

## ■ ご参考

7 (セブン)

社名の「7 (セブン)」は、創業地への敬意や幸運の象徴です。創業者木下守が、1975年に兵庫県加古川市の「セブンボール」という名のボーリング場の駐車場で、カー用品の販売を開始。土地をお借りしたボーリング場の「セブンボール」と「ラッキーセブン」にあやかりました。わたしたちの「原点」を標(しる)す数字です。

G (ジー)

「G」という総称は、わたしたちが目標とする「企業集団」をあらわす姿。国内外へ「グローバル」に成長する、「ガッツ」あふれる、活力に満ちる「グループ」を意味します。



ロゴマークで表現したのは、「芽生え」と「息吹」です。「G」と「7」を組み合わせたデザインは、植物から種子が芽を出した姿。「青」は、日本を囲む海の色。海を飛び越え、グローバルに活躍できる企業を、「赤」は、情熱の色。ガッツに満ちる、企業集団を意味しています。

(平成24年6月27日 経MJ小売売上ランキングより)

小売全体の順位	社名	売上高(百万円)	経常利益
126位	G-7ホールディングス(連結)	76,130	2,250

### ■カー用品

52位	オートバックスセブン(連結)	2,373,421	15,307
97位	イエローハット(連結)	103,110	7,188
228位	アイエーグループ	37,684	2,558
291位	オートセブン	27,171	1,719
346位	アイエー	20,022	861
463位	オートウェーブ(連結)	10,847	184

### ■食品スーパー

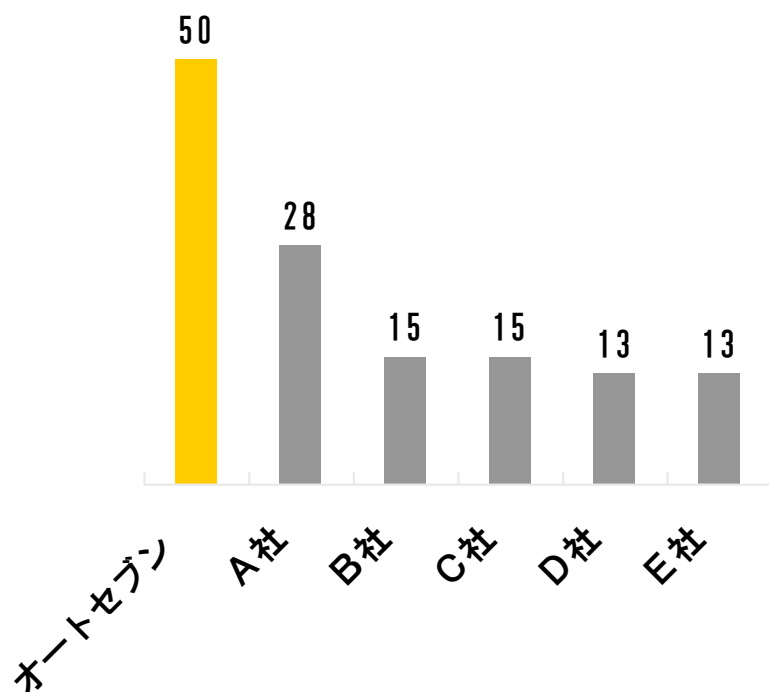
75位	神戸物産(連結)	150,682	3,581
110位	大黒天物産(連結)	89,364	4,593
216位	サンセブン	40,306	1,280
217位	オーシャンシステム(連結)	40,290	1,007
233位	京急ストア	37,045	332

## 当社の特徴

「オートバックス」「業務スーパー」ともに最大の規模を誇るメガフランチャイジー

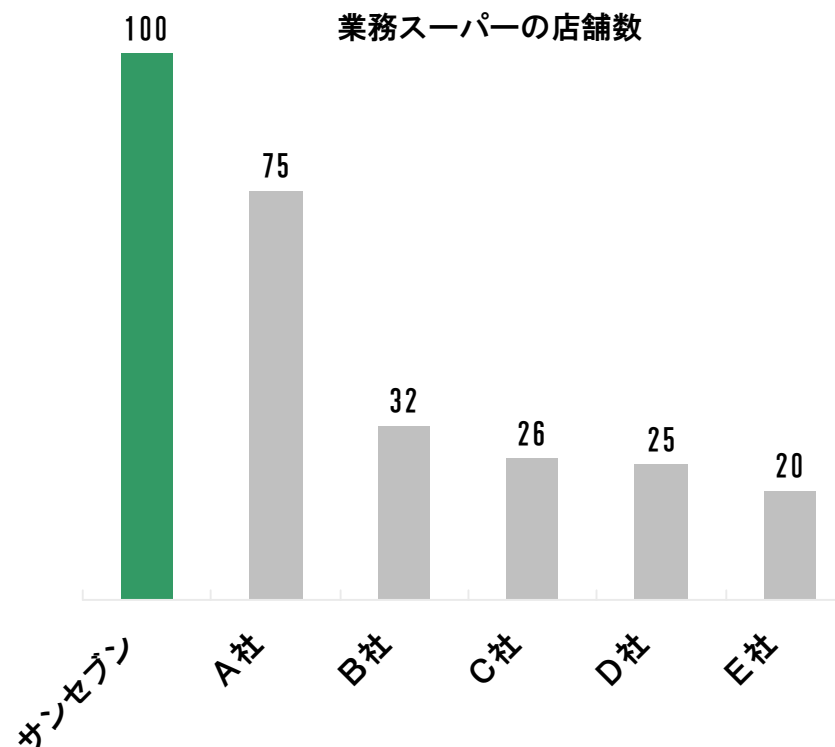
(平成24年4月1日現在)

### オートバックス店舗数



オートバックス総店舗数：514店舗

### 業務スーパーの店舗数



業務スーパー総店舗数：600店舗



既存事業は堅調に推移、新規事業に積極的投資

### ■セグメント別 売上高構成比



### ●オートバックス・車関連事業

売上高 30,347百万円（2.4%増） 営業利益 1,685百万円（7.8%増）  
地デジ移行にともなうチューナーやカーナビ、スタッドレスタイヤ、アルミホールが好調

### ●業務スーパー・こだわり食品事業

売上高 43,142百万円（7.8%増） 営業利益1,170百万円（4.2%増）  
消費者の低価格志向の継続により増収増益

### ●その他事業

売上高 2,640百万円（45.6%増） 営業損失 445百万円  
めぐみの郷、鉄板ビュッフェなどの新規出店により初期出店費用や償却負担増